

症状が良くなったり、悪化したりを繰り返す

潰瘍性大腸炎

大腸の粘膜に原因不明の炎症が起き、ただれたり潰瘍ができる病気です。発症する年代は20歳代を中心に、増加傾向にあります。



炎症により起こる特徴的な症状

●一日に数回トイレに駆け込むような下痢

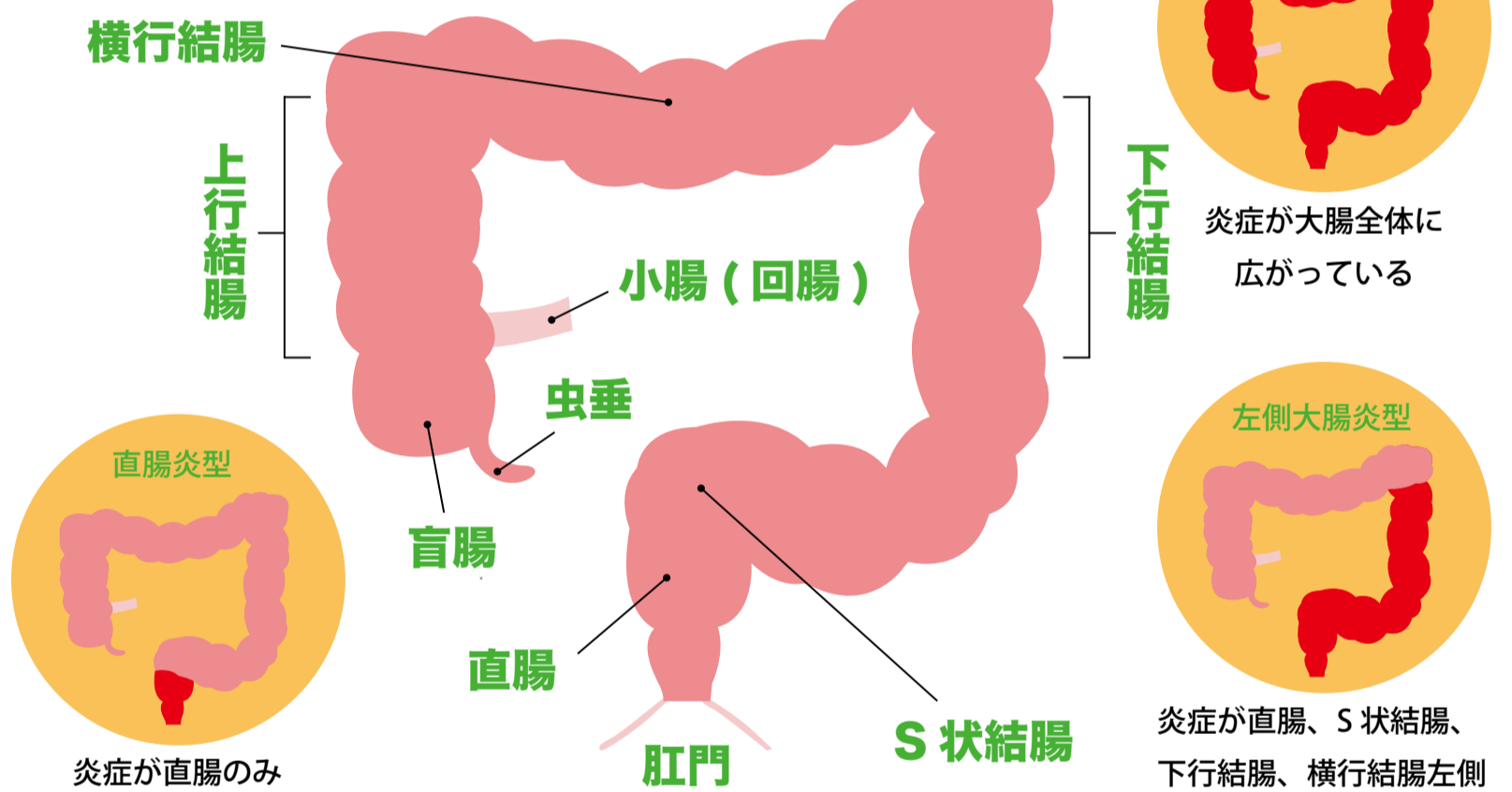
●炎症がある部分からの出血が便に混じる粘血便(赤黒い色に白く濁った粘液が付着)

●下腹部中心の痛み
症状は軽度、中度、重度にわかれ、炎症の範囲が広い程症状が強くなります。症状が悪化すると発熱、貧血などの症状も出てきます。

これらの症状が長期にわたる場合は潰瘍性大腸炎を疑いましょう!

大腸の構造と炎症の範囲

大腸は1.5m程の長さの器官です。小腸で吸収されなかった水分を吸収し、不要なものを便として肛門から排泄します。



再発を防ぐために

肉料理やファーストフード

などは避ける



ストレスや疲れをためない



潰瘍性大腸炎が増加している原因には食生活の欧米化も考えられています。油分や動物性たんぱく質をとり過ぎないように、バランスの良い和食をとりましょう。規則正しい生活を心掛け、睡眠を十分にとり、疲労が残らないようにしましょう。

健康豆知識

潰瘍性大腸炎は国の難病に指定されています

潰瘍性大腸炎は国の指定した特定疾患治療研究事業の対象疾患になっています。医師から潰瘍性大腸炎の診断を受け申請によって認定されると、特定疾患医療受給者証が交付され潰瘍性大腸炎における医療費の補助を受けることができます。腸管合併症や腸管外合併症などの合併症治療についても、医師の判断により補助の対象になることがあります。